



週 報

Rotary
東京本郷ロータリークラブ



2025-2026 年度 RI 会長メッセージ「よいことの ために 手を取りあおう」

東京本郷ロータリークラブテーマ 百花繚乱「35 周年から共に未来へ」

創立／平成 3 年 3 月 13 日 (1991 年)

事務局／〒 101-0032 千代田区岩本町 2-1-16 森川ビル 5F 電話：080-3277-4540 FAX：03-5829-4541

インターネットホームページ：<http://www.t-hongo-rc.gr.jp> E-mail：office@t-hongo-rc.gr.jp

例会：毎週水曜日 12 時 30 分 例会場：ホテルメトロポリタンエドモント 電話：03-3237-1111

〒 102-8130 東京都千代田区飯田橋 3-10-8

会長：飯塚貞子 副会長：山路敏之 会長エレクト：市河久和 幹事：田上睦深 会報／広報・公共イメージ向上／IT 委員長：篠崎陽一

第 1542 回例会

2025 年 7 月 16 日発行 (No. 1482)

本日の卓話 (7 月 16 日)

「混迷する世界の先にあるウェル
ビーイング、教育と芸術の役割」

東京音楽大学 教授 小森 輝彦 様

紹介者 田上 睦深 会員

* 7 月 23 日は休会です

次回の卓話 (7 月 30 日)

「ひとつのボールが繋いだところ
～ 東北とシミズオクトのストーリー～」

(株)シミズオクト

代表取締役社長 清水 太郎 様

紹介者 澤部 利藏 会員

7 月 9 日 第 1541 回例会報告

卓 話

「いにしえスピーチ」

古関 伸一 会員

齋藤 陽彦 会員



会長報告

1. ロータリー財団より、ご寄付に対しての表彰ピンが届いています。
鈴木会員 第2回 マルチプル・ポールハリス・フェロー
星野会員 第6回 マルチプル・ポールハリス・フェロー



幹事報告

1. 7 月のロータリーレートは 1 ドル = 145 円です。
2. 遅くなっておりませんが、今年度会員名簿は 7 月 16 日例会で配布いたします。
尚、事業計画書については各委員長の校正を終了し、遅くとも 8 月初めの例会に間に合うよう、準備を進めております。
よろしくお願いいたします。

出席

会員数：36名 出席数：28名 欠席数：7名
出席免除者数：3名 出席率：80.00%
6月18日修正後出席率：78.95%
クラブゲスト：臼井寛二様（田上会員ゲスト）
宮田昌利様（星山会員ゲスト）
田中良一様（文京台東Gガバナー補佐）
加藤勇一郎様（文京台東Gグループ幹事）

ROTARY ROTARY ROTARY ROTARY ROTARY

ニコニコBOX

- * 田中良一様（文京台東Gガバナー補佐）
加藤勇一郎様（文京台東Gグループ幹事）
1年間よろしくお願い致します。



- * 古関伸一会員
田上幹事「いにしえスピーチ」させていただきます（田上幹事より、依頼あり）。
- * 星山涼駿会員
宮田さん、本日はお越し頂きありがとうございます。本郷RCを楽しんでいってください。
- * 山路敏之会員
ご縁があって能登復興支援の映画『生きがい』をご案内させていただきます。7月11日から銀座で上映されます。鑑賞ご希望頂いた会員の皆様ありがとうございます。
- * 飯塚貞子会員
宮田様、臼井様、田中ガバナー補佐、加藤グループ幹事、東京本郷RCへようこそ！古関会員、齋藤会員、いにしえのスピーチ楽しみにしております。
- * 岩白啓佑会員
少し前ですが、3歳の息子と一緒に白山神社のあじさい祭りにうかがいました。息子はフラダンスがとても気に入っていました。
- * 長久保スミ子会員
しばらくぶりに出席しました。
- * 田上睦深会員
今日はビジターの臼井さんにお越しいただきました。今週木曜日、大阪万博に出展してます。ブースにいます!!ぜひお越し下さい。

ニコニコBOX

累計

41,000円

88,000円

「時間がとまる一瞬：

2025年『Rotary』誌フォトアワード」

－世界中の驚異の瞬間を捉えるため、ロータリー会員がカメラを構えたその先には何が写ったのでしょうか－

写真史上最も記憶に残る一枚についてのストーリーです。パリのサン・ラザール駅の後ろで、男が大きな水たまりを飛び越えようとしています。彼は決して向こう岸までたどり着くことはできませんが、水面に着地する直前のその一瞬、彼は空中に浮かび上がり、水面に映る彼の交差した足が映し出されています。これを捉えた写真家は決定的瞬間だと思いましたが、そのようなタイトルにはしませんでした

1952年、フランスの写真家アンリ・カルティエ・ブレッソンは、自身の作品集を『Images à la Sauvette（逃げ去るイメージ）』というタイトルで出版しました。アメリカの出版社は、そのタイトルが気に入らず、代わりに、本書の序文に17世紀の回想録作家、レツ枢機卿のエピグラフを採用しました：「この世に、決定的な瞬間を持たないものは何一つない」

カルティエ・ブレッソンは、特にそのフレーズが彼を代表するようになってしまったため、英語のタイトル『The Decisive Moment（決定的瞬間）』を好みませんでした。しかし、それは彼がほかの場所で述べた「写真とは、一瞬にして永遠を捉えることができる」という言葉を正確に反映していました。そして、このフレーズは世代を越えて写真家たちの指針となったのです。その中には、今年の写真コンテストで取り上げられたロータリアンたちも含まれるかもしれません。アドリア海の赤い屋根の町の上空に水柱が渦巻く様子、中西部の祭りで大きな火花が散る瞬間、ボツワナの泥沼を跳び越える白い牙のイボイノシシなど。

これらはすべて「決定的瞬間」です。

カルティエ・ブレッソンはまた、「人間の顔の表情よりも儂いものとは何だろうか」と問いました。その答えは、今年の「世界を変える行動人」部門の受賞作品をご覧ください。2人のロータリアンが調和の崇高な瞬間を共有している様子です。フランス人写真家がそのような瞬間を明確に表現したように、生きる行為そのものが生命として捉えられた瞬間です。

※全文はロータリーWeb (<https://www.rotary.org/ja/>)「ニュース＆特別記事」をご覧ください。

